

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 11 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員への日々の介護支援とプランの結び付きの大切さを周知し、実践するために個人記録の書式の検討を行うこと。	先日の外部評価員より指摘を受けて、個人記録の書式を変更しているが、職員への日々の介護支援とプランの結び付きの大切さを記載出来る様にする。	ケアプラン、介護計画の目標を再度職員と共に確認や見直しのミーティングを行う。ただ単に入居者への介護だけに自己満足せずに、入居者のケアの目標を再確認する。社内研修の機会を定期的に設け、職員の認知症介護の学習と、具体的な項目を挙げて協議をする。	6ヶ月
2	35	災害対策:消防署による訓練内容の確認、指導を行ってもらうと共に、消防署にもホーム火災の時の消火及び避難誘導を周知してもらうことが大切であり、消防署員の参加を望む。	消防署による訓練内容の確認、指導を行ってもらうと共に、消防署にもホーム火災の時の消火及び避難誘導を周知してもらうことが大切であると認識する事。また消防署員の参加を望む。	ホームとしては一ヶ月に一度の火災避難訓練を行っているが、確認と指導をして貰うまでの段階には達しておらず、まず避難訓練をスタッフが今年度でどのような初期消火や避難方法が最適かをスタッフ全員の参加によって話し合い、また江口孝則総括施設長が現職の消防団員として、現場指導をしている。ほぼ満足な避難についての訓練が完了した段階で、消防署よりの指導を受ける事にする。また消防署においては、夜間の火災避難訓練の指導を要請したが、昼間で夜間を「想定」した訓練しか出来ないとの事の返答があり、過去2回のグループホームでの火災は深夜であり、実際の夜間でなければ昼間とのその時の実践状況は違うのではないかと疑問に思っているため、再度の要請を行う事としている。	6ヶ月
3	52	玄関のチャイム:利用者の健やかな生活の為、音量の調節についての工夫が望まれる。	入居者の脱出をスタッフが音により出入りを分かりやすくした事設備の設置が、チャイムに頼っていた事で、入居者のためにはベストでないと、反省し、玄関チャイムを即明日より廃止。スタッフは常に入居者の状態を把握する事とする。実践する事が大切である。	入居者が過去10年間に幾度となく、ホームの玄関ドアの鍵を付ける事が身体拘束であるという指示を受け、ホームの無鍵の玄関ドアからスタッフの注意怠慢の原因で脱出された事で、チャイムを付けた経過があるが、チャイムに頼りすぎる事のため、明日平成22年11月17日よりチャイムを廃止することにより目標達成。	明日より

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。